

Club BUSINESS FARMERS

CONTENTS

定例セミナー第3弾！

海外視察ツアー／企画／提案

スケジュール／会員募集

11月の活動予定

ご案内／セミナー参加申込書

Vol.3 2007年11月1日発行

■発行・編集／株農業技術通信社『農業経営者』読者の会 事務局（担当：長谷川）

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場3-18-25 康洋ビル9F TEL 03-3360-2697 FAX 03-3360-2698

定例セミナー第3弾！

先進国型農業への道、

「4つの革命」は進んでいるか？

10月12日のセミナーでは、2つのテーマを扱った。まず「これからの農業はどうあるべきか」ということ。講師の叶芳和氏は28年前、「先進国型農業」という概念でこれを示し一世風靡した。ここでは「4つの革命」というシナリオで日本農業が先進国型農業にたどりつく道筋を描いた。そこで今回は、4つの革命がその後、どのように進んだか確かめ、改めて「どうやって先進国型農業になるか」を明らかにした。

4つの革命とは、連鎖的に起こる市場革命↓土地革命↓技術革命↓人材革命である。市場革命とは農業分野でも市場原理が貫徹して、農産物の価格が下がることを意味する。28年前、同氏は市場原理にもとづく米価を7000円程度と試算した。そして市場革命が借地による土地の流動化、すなわち土地革命を起し、続いて農業経営に技術と人材の変化を起すと洞察した。

さて現在、畑作については既に4つの革命が進行し、経営能力のある農家に土地が集まる状況が実現している。一方、水田は遅れていたが、今後余計な規制や介入がなければ、やはり同じことが進む。「選択的減反」により、やりたい農家だけが生産調整して、売れる米をたくさん作った産地に地域配分を多くする調整がなされるべき、と同氏は考えている。

生き残る農家には、2つの能力——マーケティングと経営能力が必要だ。マーケティングとは市場や顧客のニーズに応えた商品を用意することであり、経営能力とは経営資源の最適な組み合わせで、ニーズに応えた商品を低コストで供給することである。

もう一つの重要なキーワードは「脱コモディティ化」だ。いずれ自由化すれば、価格で外国産にかなわない農産物もある。だから量で売る商売はやめて価格競争でない勝負をする。同氏は本誌「新時代の挑戦」で株セゾンファクトリーのジャム、株且千花の江戸菜などを取材し、それを実感した。

この時代、研究者のすべきことは何か。「期待利潤率」を高めていくための農業ビジョンの策定、農業改革のありかたを模索することだ。そして食産業の現場を歩いて思うことは、農家は農業のおかれる環境の多様性を主張するが、マーケットにはもっと多様性がある。市場や消費者側からの要求に応えた重層的な迂回生産のありかた、これが同氏が今、注目するテーマだ。

聴ける。

毎月開催される『農業経営者』読者の会定例セミナーが、本誌HPで聴講できるようになりました。農場の成長・発展に役立つ情報源として、人材育成の教材として、是非一度お試しください。

↓いますぐアクセス

<http://www.farm-biz.co.jp/semi/>



生き残る農家には、2つの能力——マーケティングと経営能力が必要だ。マーケティングとは市場や顧客のニーズに応えた商品を用意することであり、経営能力とは経営資源の最適な組み合わせで、ニーズに応えた商品を低コストで供給することである。



セミナー後、講師の叶芳和氏を交えて、なごやかな雰囲気であった懇親会。

海外視察ツアー

Gulfood 2008の出展者募集

世界の有望市場ドバイに、ニッポン産高級農産物を売り込もう！



Gulfoodは、出展者数75カ国2,471社、来場者数140カ国3万7,618人(2007年)の実績がある。ドバイへの販路創出では、最も重要な展示会のひとつだ。

客が訪れている。近年、最も脚光を浴びている有望市場だ。

Gulfood 2008とは

このドバイに読者の高品質農産物を売り込みに行くのが、今回の海外視察・出展ツアーの目的。ツアーのメインであるGulfood 2008は、ドバイへの販路創出に取り組む上で、最も重要な展示・商談会のひとつ。08年2月24日(日)から27日(水)までの4日間、ドバイ国際会議見本市センターで開催される。

出展無料、通訳のサポートも

会場では農林水産省の委託事業(農林水産物等海外販路創出・拡大事業)により「日本パビリオン」が設置される。募集スペースは最大14社・団体。出展料(スペース代、ブース加工代)は無料。さらにコミュニケーションサポートが可能な補助員が、各出展者に1名無料で配備、日本パビリオン内に

通訳が3〜4名配備される。渡航・輸送関係のサポートもあり、海外初出展でも安心してビジネスに専念できる。

視察のみの参加も歓迎！

読者の会ではGulfood 2008への出展者を募集するだけでなく、今年には視察して現地のニーズなどを見極めようという参加者も歓迎！会場外の関連施設への視察も前後に企画している。費用や視察する場所は、参加者の要望にあわせて組むので、事務局まで問い合わせを。ただし、出展希望者は11月16日までに申込み必要があるのでお早めに！

企画

08年2月、全国大会を開催

全国の農業経営者ネットワークの構築に向けた全国大会、いよいよ胎動！

読者の会では、2月中旬に全国大会を開催します。気鋭の講師を招いたセミナー、読者の農場視察ツアー、実演会、経営や技術の専門家との相談会などを予定しています。

また皆様が視察したい農場、ご関心のある技術、その他斬新な企画も募集しています。次ページの問い合わせ用紙にて、ご要望をお寄せください。

提案

売り手と買い手の

コミュニケーションの場に

(有)ブランドマザーファーム会長

日東寺陽一さん(千葉県香取郡)

定例セミナーを開いて生産者や関連業者が集まるのはとてもいいことだ。

セミナー後に懇親会があることを、もっと宣伝したほうがいい。作る側と売る側が、実際に会ってコミュニケーションをする場はあまりないから。参加者はネームプレートを付けて、受付では参加者名簿を配布すれば、より交流しやすくなるだろう。

講師は著名人や大規模農家だけでなく、小規模農家でもいいのでは。話が流暢でなくても訛っていても、その人のリアルな売り方や栽培技術を話せばいい。話が苦手な場合は、パネルディスカッションにすればいいし、意見交換にもなる。自分の農産物の魅力を伝えることが苦手な農家は多い。その意味で、売り手から生産者に向けての講義も期待している。東京だと参加者が限られてしまうから、大阪でも開催してほしい。

展示会の共同出展もいい取組みだ。読者の会の活動を通じて、生産者が売り手と出会う場が広がることを期待したい。

★企画・提案お待ちしております。



12/14 金 会場/株農業技術通信社内セミナー会場 開催時間/16:00~18:00

「戦後農政を総括する」

【講師】大泉一貫氏 宮城大学大学院教授

平成14年に発表された米政策改革大綱に伴う施策が進んでいる。それは昭和46年以来の政府管理の米政策を市場の原理にゆだねる道筋であり、日本農業の未来のために避けて通れぬ改革であった。聖域化されてきた米農業を振り返ることでこれからの日本農業を考える。

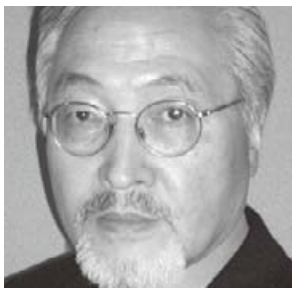


12/21 金 会場/株農業技術通信社内セミナー会場 開催時間/16:00~18:00

「自宅から3km圏・地続き90haの水田経営」

【講師】田中正保氏 (有)田中農場社長

同氏は自宅から地続き3kmの範囲で、約90haの耕作地を確保している。また、その米や大豆、その他作物は、業務筋や個人家庭に高値で販売されている。しかも、春の播種時期にはほとんど注文を得ている形で農業経営を行っている。そんな田中氏の経営を語っていただく。



1/18 金 会場/株農業技術通信社内セミナー会場 開催時間/16:00~18:00

「2008年、野菜流通はどう変わるのか!？」

【講師】小林彰一氏 農経企画情報センター代表取締役

本誌連載の「今年の市場相場を読む」でおなじみの農産物流通ジャーナリスト・小林彰一氏を講師に迎える。2008年の野菜流通について、制度変化、新たなベンダーの参入、輸出入の変化などの視点から、どのような変化があるか解説する。

スケジュール

12月1月には、上記セミナーを開催します。商談会への出展、海外視察ツアーも鋭意企画中! 『農業経営者』07年12月号93~95ページの広告もご覧下さい。

【参加申込について】

- セミナーに参加される方は、あらかじめFAXにて予約をお願いします。次ページの申込書をご利用ください。
- その他の参加申込は事務局までお問合せ下さい。

会員募集

読者の会は、『農業経営者』定期購読者の会です。次の3種類の会員で構成されています。

■正会員

本会の目的に賛同する法人、および個人

■運営会員

本会の目的に賛同し、その発展のための助言、企画、普及活動を行なうことで、会の運営に参画する正会員

■賛助会員

本会の目的に賛同し、その活動を支援、援助する法人、および個人

※すでに『農業経営者』を定期購読されている方は、自動的に正会員となります。特にお申込は必要ありません。

読者の会 問い合わせ用紙 (FAX専用 0120-410-359)

■ご意見・問い合わせ内容

お名前	会社名 農場名	TEL

■運営会員、賛助会員をご希望の場合は、右記にチェックしてください。 運営会員 賛助会員

11月の活動 セミナー&食の商談会への共同出展

11/9 金

会場/株農業技術通信社内セミナー会場
時間/16:00~18:00

「コメ価格暴落後の日本の水田経営」 【講師】土門剛氏（農業評論家）

PROFILE●1947年大阪府生まれ。農業や農協問題の論文を規制緩和と国際化の視点から多数執筆。著書に、「農協が倒産する日」（東洋経済新報社）、「穀物メジャー」（共著/家の光協会）、「東京をどうする、日本をどうする」（通産省八幡和男氏と共著/講談社）、「コメと農協「農業ビッグバン」が始まった」（日本経済新聞社）など。

全農による「コメ仮渡金7000円」という発表は、農協界のベルリンの壁がついに壊れたことを示す象徴的の事件である。「土門辛間」でおなじみの同氏が今後のコメ生産・流通の展開、そして同時に破綻していくと思われる生産調整の今後について解説する。

11/22 木

会場/株農業技術通信社内セミナー会場
時間/16:00~18:00

「サイレージ生産を核に畑輪作体系1000haを目指す」 【講師】坂上隆氏（有坂上芝園 専務取締役）

PROFILE●1968年鹿児島県生まれ。24歳で就農。加工用ジャガイモ、サツマイモ、ケール、デントコーンなどを輪作。生産はすべて企業との契約栽培。03年にコントラクト事業として飼料の供給販売を開始。今期はデントコーン80haを作付け。社名は先代が芝の生産を始めたことによる。売上高2億8千万円。無借金経営。剣道7段。

鹿児島県・志布志に分散する平均20aの畑で、加工バレイショと青汁原料のケールを生産する一方で、畜産地帯での新ビジネスとして、家畜糞尿の受け入れを複合したコーンサイレージ生産を行なう同氏。1000haの経営を目指す新たな事業展望を語る。

11/21 水

会場/東京都立産業貿易センター浜松町館
5階展示室 時間/10:00~17:00

加工・業務用野菜産地と実需者との交流会 加工・業務用野菜交流会

主催:(独)農畜産業振興機構/農林水産省 生産局園芸課 出展料:無料
同時開催:JFフードサービスバイヤーズ商談会2007



本誌では、大規模な「読者の会」ブースを設置し、読者の皆様の共同参加という形で出展します。

- ①自分の商品を直接バイヤーに売り込みたい!
- ②外食・中食、卸、小売の販路を広げたい!
- ③バイヤーの求める商品を生の声で聞きたい!
- ④他の生産者の売り込み方を見てみたい!
- ⑤展示会には出たいが手続きや準備が大変そう...

ひとつでも当てはまる方、奮ってご参加ください。お問合せは☎03-3360-2697(担当/並木)まで!
※定員になり次第締切ります。お申込はお早めに!

◎セミナー参加申込書 (FAX専用 0120-410-359)

■参加を希望するセミナーにして、必要事項をご記入下さい。

〈セミナー〉	〈セミナー終了後の懇親会〉	〈「食」のトレンドツアー〉
<input type="checkbox"/> 11/9 (金) 土門剛氏	<input type="checkbox"/> 参加 (18:00~20:00)	<input type="checkbox"/> 11/10 (土) (10:00~15:10) 参加
<input type="checkbox"/> 11/22 (木) 坂上隆氏	<input type="checkbox"/> 参加 (18:00~20:00)	<input type="checkbox"/> 11/23 (金) (10:00~15:10) 参加
<input type="checkbox"/> 12/14 (金) 大泉一貫氏	<input type="checkbox"/> 参加 (18:00~20:00)	<input type="checkbox"/> 12/15 (土) (10:00~15:10) 参加
<input type="checkbox"/> 12/21 (金) 田中正保氏	<input type="checkbox"/> 参加 (18:00~20:00)	<input type="checkbox"/> 12/22 (土) (10:00~15:10) 参加
<input type="checkbox"/> 1/18 (金) 小林彰一氏	<input type="checkbox"/> 参加 (18:00~20:00)	<input type="checkbox"/> 1/19 (土) (10:00~15:10) 参加

※セミナー終了後には、**懇親会**(任意参加・会費1,000円)を予定しております。翌日には都内各地のイケてる「食」を食べ歩きする**「食」のトレンドツアー**(任意参加・有料)を実施します。セミナーと併せてご参加ください。

セミナー受講料: 定期購読者無料(一般5,000円) ※セミナーは事前申込制です。

<input type="checkbox"/> 定期購読者(無料)	<input type="checkbox"/> 一般参加(5,000円)	月刊「農業経営者」 定期購読者 無料
<input type="checkbox"/> 1年購読18,000円(送料・税込) — この機会に年20回以上予定のセミナーに無料で参加できる「農業経営者」定期購読を申込 —		
お名前	会社名 農場名	TEL
E-mail		FAX
ご住所 〒		

お申込方法/FAX 0120-410-359まで送信してください。(農業経営者HP <http://www.farm-biz.co.jp/> からもお申込できます) お問合せ/(株)農業技術通信社「農業経営者」読者の会 事務局 TEL 03-3360-2697

※セミナーへの無料参加は、定期購読1件につき、1名様までです。2名様以上でお申込される場合、2人目より2,000円をいただきます。予めご了承ください。